

もくじ

柏屋・星野家に伝わる三件の古文書について・下 1P

はい、文化財係です。4 3P 文化遺産調査特別展のお知らせ 4P

# 足立史談

## 第608号

2018年10月15日

足立区立郷土博物館内

足立史談編集局

〒120-0001

東京都足立区大谷田 5-20-1

TEL 03-3620-9393

FAX 03-5697-6562

(30-309)

### 資料紹介

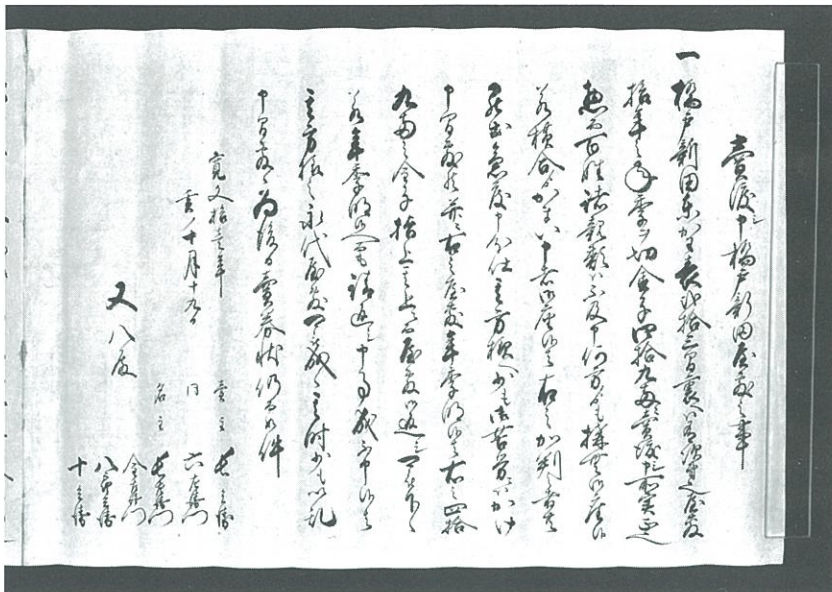
#### 柏屋・星野家に伝わる

#### 三件の古文書について・下

鳩ヶ谷古文書同好会

米山

徹



売渡シ申橋戸新田屋敷之事



〔前号「足立史談六〇七」に続き、鳩ヶ谷古文書同好会のみなさんで解読作業をすめられた川口里の船津家に残る千住河原町の柏屋（星野家）の古文書を紹介をしています。〕一 議定証文之事〔は前号にて掲載しています。〕

### 〔古文書 二〕

#### 売渡シ申橋戸新田屋敷之事

一 橋戸新田東かわ表式拾三間裏へ

ハ有次第（註1）の屋敷

拾年の年季ヲ切金子四拾九兩ニ

売渡シ申所実正也

総て百姓諸親類ハ不及申何方より

りも構無御座候

若横合よりかまい申者御座候は

右之加判之者共罷出急度（註

2）申分（註3）仕其方様

へ少も御苦勞ニハかけ申間敷

候 并二右之屋敷年季明候は

右之四拾九兩之金子指上（註

4）其上ニて屋敷御返シ可被

下候

若年季明候へても請返シ申事成

不申候は

其方様之永代屋敷可被成候 其

時少もい乱（註5）

申間敷候

為後日売券状仍而如件

寛文拾壹年 売主 長兵衛

亥ノ十月十九日

### 〔古文書 三〕

#### 前書古証文之儀は当家屋敷沽券之

#### 写也

又八ト奉申当家御先祖也

本書は当町名主伝右衛門殿宅ニ有之

候

右沽券之地所式屋敷ニ相成候 最初

は古来より伝聞ニ去ル寛文延宝之頃

ご先祖 庄左衛門ト奉申御方之由申

伝 幼年之砌牛之助殿ニ今北隣常陸

屋三郎右衛門先祖也世話ニ相成候ニ

付右之屋敷表間口式拾三間を式ツニ

致牛之助殿へ

遣シ申候 其後元禄年中

御公儀様御検地御繩入有之 右屋敷

牛之助殿江遣シ候分同人倅三郎右衛

門名所（註6）ニて

御繩受ニ相成当家ニて庄左衛門名

所（註6）ニて

御繩受ニ相成候 猶又此度名主年寄

申合御繩受百姓並二旧記古証文類当

町名宅ニて取調候 其砌右古証文

玄関ニ有由先代与里申伝へ有之間

右沽券相尋候処 全有之依之披見い

たし書写子孫へ相伝者也 末々所持

之者勿粗略ニ致事記畢

又八殿

同 六左衛門  
名主 長左衛門

金左衛門

八郎兵衛

十兵衛



弘化二年

巳ノ四月

星野宇兵衛 六十一才  
宇兵衛倅 弥右衛門改

同 庄左衛門 廿七才

用語解説等注釈

註1 有次第（道路に平行な中と

違つて直角の方向へは伸  
ばせる限りの長さ。昔の  
土地の使い方）

註2 急度（きつと。必らず。）

註3 申分（もうしぶん。物事を

申し立てること）

註4 指上（差上。さしあげ。）

註5 い乱（原文・以乱）（悲乱・

心がいらいらすること。）

註6 名所（などころ。名前と場

所、即ち姓名と住所）

三点の古文書を読んで

この三つの文書を読んで、どれだ  
けのことが読み取れるか。

前号で紹介した一番目（議定証文  
之事）・「古文書一」の文書は大変厚  
くて丈夫な紙を何枚も継合せ、継目  
の裏ごとに十名の印を押した（継紙  
印形致す）もので、十名の「百姓」  
の一致団結の証文である。文字数も  
大変多く立派な巻物となっている。

今回紹介した「古文書二」と「古

文書三」の文書はそれに比べると紙  
質は薄く、文字数は少ないが内容的  
には「古文書一」に劣らず、興味津々  
のものである。

この三文書は共に弘化二年  
（一八四五）に書かれたものだが、  
「古文書二」の内容はその百七拾五  
年前の寛文十一年（一六七二）の古  
い証文を書き写したものである。

まず「古文書一」の内容は、千住  
宿の十名の「百姓」が百五十年前の  
元禄八年（一六九五）の検地縄受の  
事を強く想起した様で、その時のそ  
れぞれの先祖の名前に改名し、関連  
して橋戸町・河原町など町の名に愛  
着を持ち、いつからそう呼ばれるこ  
とになったかなど古証文を徹底的に  
調べている。

そして、この十名でお上の掟や通  
達をよく守ること、他へも守らせる  
こととか、名主などが自己の勝手な  
考えで（一己の存じ寄を以つて）小  
前百姓（特別の権利・家格などを持  
たない一般の百姓）が困ったりする  
とか、また、町内でなにか不都合な  
こと（押領非分の取計らい）があれ  
ば十名で評議の意見（異見）をいい  
必ず解決すると決めたという宣言で  
ある。また十名のうち、だれかが家  
運がかたむきかけた時はどの様にも  
相談にのるとしている。

「古文書二」の証文名は「売渡し」  
となっているが、十年と年季を切つ

ているからには事実上は質入れであ  
る。「古文書一」の地名考証で古証  
文を調べた時に、屋敷質物証文と屋  
舗譲証文の二種あった。）

それが百七十五年後の「古文書三」  
で柏屋の先祖（庄左エ門・元禄の検  
地を受けた人）が幼少の時世話にな  
った牛之助（常盤屋の先祖）に屋敷  
を半分譲つたと記して、実際に  
「古文書一」での十名の署名でも柏  
屋の次に常盤屋となっていて、結果  
として屋敷は質流れとなったことが  
わかる。

また、この十名の団結に至る動機  
が気になる。今から見れば幕末のこ  
の頃の世間の状況に原因がある様に  
思われる。

（終）

「鳩ヶ谷古文書同好会」

代表 米山 徹／金井 英一

篠田 常子／伊澤 隆男

青羽 吉夫



解読した古文書を見る同好会メンバー

はい、文化財係です。4  
東京都文化財ウィーク2018

秋といえば、食欲の秋、スポーツ  
の秋など、何かと物事に打ち込みや  
すい季節ですが、文化財係としては、  
やはり文化の秋をおすすめしたいと  
ころです。ということ、今回は、  
東京都文化財ウィークについてご紹  
介します。

足立区には、区の登録・指定文化  
財が多くありますが、区の他に国と  
東京都の指定文化財も存在していま  
す。そして、東京都は毎年一月三  
日の文化の日を中心に文化財ウィー  
クを開催しています。

期間中には公開事業が行われま  
す。特に、特別公開事業では、通常  
公開していない文化財を見ることが  
できるようになります。足立区では  
三カ所の特別公開と一ヶ所の通常公  
開が行われますので、文化財ウィー  
クで公開される東京都指定文化財に  
ついてみてみましょう。

特別公開事業

■西新井大師総持寺

絹本着色虚空蔵菩薩像 附修理関  
係文書三点（けんぼんちやくしよ  
くこくうどうぼさつどう つけたり  
しゅうりかんけいもんじょさんてん）



西新井大師総持寺は、弘法大師空海と縁の深いお寺です。天長三年（八二二）、空海は、当地で護摩祈願を行い、お堂の西側の枯れ井戸から水が湧き、この地域の疫病も平癒したと伝わり、この井戸が西新井という地名の語源と言われています。

本像に描かれた虚空蔵菩薩は、無限に続く虚空のように限りない福德と智慧を備えた菩薩で、記憶力を増大させる求聞持法（ぐもんじほう）という修行の本尊とされました。空海は、ある僧から百万回の真言を唱えるという荒行の虚空蔵求聞持法を教えられて修行し、あらゆる經典を暗記することができるようになったといわれています。

本像は、室町時代中頃の制作であると推定され、東京における弘法大師信仰の一端を示す作品として重要とされています。

また、本像は江戸時代の万治三年（一六六〇）・享保九年（一七二四）・安政四年（一八五六）の三回修理されたことを示す文書が残されており、いかに大切に保管されてきたかを現代に伝えています。

公開場所…西新井一・一五・一  
公開日時…一〇月二十九日（月）

一〇時～一五時

### ■明王院（みょうおういん）

木造如意輪観世音菩薩坐像（もくぞうにいりんかんぜおんぼさつざぞう）

明王院は、治承二年（一一七八）に源頼朝の叔父である源義広（志田先生・しだせんじょう）が創建したと伝わります。

当寺に伝わる如意輪観音像は、応安二年（一三六九）に造仏されたものです。直空という人物が法眼院秀に彫らせたもので、法眼院秀は鎌倉仏師の一派である印派（いんぱ）の仏師と推定され、印派は運慶・快慶で有名な慶派と並ぶ流派として知られています。残念ながら直空という人物については不明です。

如意輪観音は、その手に持っている如意宝珠（にいぼうじゆ）で人々に財宝を与え、輪宝（りんぼう）を転じて衆生（しゆじょう）の迷いを破ると言われています。

本像は、半跏思惟像（はんかしいぞう）です。これは、台座に腰をおろし、右足を曲げて左足の膝に載せ、右手を曲げて指先を頬に当てて思索にふける姿です。

本像はお堂に安置されていました。が、戦国時代にはお堂が破損しており、永正一八年（一五二一）に再建したことを示す墨書が像の中にありました。江戸時代の寛文元年（一六六一）に像を修理しましたが、

平成二五年にも修理をし、失われていた髻（もとどり）を後補し、現在の姿になっています。

公開場所…梅田四・一五・三〇  
公開日時…一〇月三十一日（水）  
九時～一六時

### ■性翁寺（しょうおうじ）

木造阿彌陀如来坐像（もくぞうあみだによらいざぞう）

性翁寺は、江戸時代に広まった六阿弥陀伝説とゆかりの深い寺で、本像もこの伝説と関係しています。六阿弥陀伝説は、奈良時代の高僧として名高い行基（ぎょうき）が一夜の内に六体の仏像を彫ったという伝説で、登場人物などに複数の類型がありますが、おおむね、次のような伝説になります。

現在の江北地区一帯を治めていた宮城宰相の娘の足立姫は隅田川を越えた北区豊島一帯の領主である豊島左衛門尉に嫁ぎましたが、嫁ぎ先とうまくいかず、神龜二年（七二五）、世を憐んで隅田川に身を投げ入れて亡くなります。悲しんだ父の宮城宰相は、紀伊國（現和歌山県）の熊野権現まで詣でると、お告げを受けて霊木を授かり、海中に霊木を投げ入れます。すると、その霊木は、熊ノ木（江北二丁目四二番地）まで流れ着きました。ちょうどその頃、行基

が当地に滞在しており、宮城宰相は行基に頼んで、流れ着いた霊木から六体の阿彌陀仏を彫ってもらい、足立姫を弔います。さらに宮城宰相は、足立姫の遺影として、余った霊木からもう一体の阿彌陀仏を行基に彫ってもらい、屋敷の傍らに草庵を建立します。これが性翁寺の始まりで、性翁寺が木余（きあま）如来と呼ばれる所以（ゆえん）です。そして、本像が余った木で作られた仏像にあたります。

丸みをおびた面部や穏やかな表情、浅く彫られた流麗な衣文などが見事な仏像です。

公開場所…扇二・一九・三  
公開日時…一二月二日（金）  
九時～一六時

### 通常公開

#### ■東岳寺（とうがくじ）

##### 初代安藤広重墓及び記念碑

東岳寺は、もともと台東区にありましたが、昭和三六年に現在地へ移ってきました。

安藤広重は、浮世絵師として著名な人物で、葛飾北斎と並んで世界にその名を知られています。安藤は本姓なので、現在は、画姓である歌川を用いた歌川広重と呼ばれています。

東岳寺は広重の菩提寺で、境内には広重の墓があります。墓石は関東



大震災や戦災のために壊滅的な被害を受けてしまいましたが、昭和三十三年（一九五八）の広重百回忌に再建されました。

一〇月八日まで郷土博物館で「広重目線」と題する展示を行っていたので、ご覧になった方もいらっしゃるかもしれませんが、また、長年広重を顕彰してきた広重会と郷土博物館および文化財係が共催して、広重忌の九月六日に「一日だけの広重展」も実施し盛況のうちに終了しました。

公開場所・伊興本町一・五・一六  
公開日時・通年  
九時～一六時

特別公開日には、学芸員や文化財指導員による解説もありますので、普段、なかなか見ることのできない、東京都の指定文化財を見に行ってみるのはいかがでしょうか。

また、一〇月一日から十一月三〇日までの二か月間、都内各地で多種多様な企画事業が行われます。これらの内容については、東京都教育委員会発行のパンフレットに記されています。パンフレットは郷土博物館や伊興遺跡展示館、各地域学習センターや各区立図書館などで配布していますので、ぜひご覧ください。  
今年の秋は、文化財に親しんでみませんか。

（文化財係 学芸員 佐藤貴浩）



性翁寺



総持寺（西新井大師）



東岳寺



明王院

（連載中の「小右衛門町の家族写真」は次号より再開いたします。）

柴田是真 《六歌仙墨戦図》 明治時代



頒布価格 九〇〇円  
また、今回も展示構成・論考執筆にご協力いただいた先生方をお迎えしてのスタディ・デイも開催予定です。詳しくはホームページをご覧ください。

頒布価格 九〇〇円

A4判・オールカラー・一二八頁

千住の名倉家を中心として、俳諧をはじめとする江戸の文人交友の広がり、そして明治以降さらに多様な美術家・文化人たちを含めた活動支援へと拡大していったことを、伝来した新発見の資料群から紹介します。あわせて特別展の内容を詳しく紹介した図録を頒布します。

文化遺産調査特別展  
大千住 美の系譜  
―酒井抱一から岡倉天心まで―  
会期・平成30年10月30日（火）  
〜平成31年2月11日（月・祝）  
展示入替休館12月25日〜1月3日